



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

22日

株高を受けたクロス円の上昇や米長期金利の上昇を支えにドル円は一時105.85円まで値を上げた。ただ、米10年債利回りが低下に転じると一転売りが優勢に。一時104.98円まで値を下げた。

23日

欧米株価の下落を背景にリスク・オフのドル買いが先行。パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長の議会証言を前にポジション調整目的の買いも入り、ドル円は一時105.43円まで上昇した。FRB議長が金融緩和策を維持する姿勢を強調すると105.06円付近まで失速したが、下値は堅かった。

24日

米長期金利の大幅上昇を手掛かりに全般ドル買いが先行。1月米新築住宅販売件数が予想を上回ったことも相場の支援材料となり、ドル円は一時106.11円まで上げた。ただ、パウエルFRB議長が米下院金融サービス委員会で金融緩和維持を改めて強調すると米長期金利が上昇幅を縮小。ドル円はつれる形で一時105.83円付近まで下押しした。

25日

米債券市場では米景気回復や国債増発を見込んだ債券売りが優勢となり、米10年債利回りが急騰すると、ドル円もつれ高となった。一時106.40円まで上値を伸ばした。

26日

この日もドル高の流れが継続し、ドル円は総じて堅調に推移した。NY市場に入り、ダウ平均が一時490ドル超下落すると、リスク・オフのドル買いが活発化したこともあり、一時106.69円と昨年8月28日以来約半年ぶりの高値を付けた。

総括

先週のドル円は底堅い動きとなった。週前半こそ一時104円台に入り込む場面もあったが、その後は米長期金利の大幅上昇を手掛かりとしてドルが全面高の展開となったため、ドル円は上値を試す動きに。200日移動平均線など目先のレジスタンスを超えていることでテクニカル的な買いも重なって106.69円と約半年ぶりの高値を更新した。

先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	予想値	結果
22日	22:45	月	EUR	ECB総裁発言	*	*	*	*	*
23日	19:00	火	EUR	HICP改定値	前年比	1月	0.9%	0.9%	0.9%
23日	24:00	火	USD	FRB議長、議会証言	*	*	*	*	*
24日	10:00	水	NZD	RBNZ政策金利	*	*	0.25%	0.25%	0.25%
24日	24:00	水	USD	新築住宅販売件数	前月比	1月	1.6%	2.1%	4.3%
25日	22:30	木	USD	GDP改定値	前期比年率	10-12月期	4.0%	4.2%	4.1%
26日	22:30	金	USD	PCEコア・デフレーター	前年比	1月	1.5%	1.4%	1.5%

一言コメント・・・前週分の米新規失業保険申請件数や1月米耐久財受注額などが予想より強い内容だったことや、米7年債入札が「不調」だったことを受けて米債券売り（金利は上昇）が優勢に。米10年債利回りは一時1.6085%前後まで急騰し為替市場ではドル買いが、株式市場は世界的に下落する展開となりました。

先週の注目された要人発言

22日23:20 イエレン米財務長官「より長期の債券発行はある程度理に適うようだ」「金融取引税は検討の価値がある」「ビットコインは投機性が強く、利用者は警戒が必要」

22日23:38 ラガルドECB総裁「ECBは長期名目金利の動向を注視」

24日00:04 パウエルFRB議長「年内の見直し改善が示唆されている」「目標に向け長い道のり、一段の進展には一定の時間が必要」「回復は依然として不均衡かつ完全な形とは程遠い」「先行きは極めて不透明」「インフレは一時的に上昇すると予想」「望ましくないインフレが発生した場合、それに対処するためのツールがある」

24日08:43 麻生財務相「現対策を着実に実行、追加対策は考えていない」「少なくとも2025年までは赤字国債を発行せざるを得ない財政状況」「財政規律を緩めることは全く考えていない」

24日10:45 黒田日銀総裁「ETFの買い入れはTOPIX連動型を増やすなど、個別の株価に影響がないように配慮している」「現時点ではETFの購入で株式市場の機能低下は生じていない」

25日07:03 クラリダ米連邦準備理事会（FRB）副議長「米景気回復に強気」「量的緩和の縮小議論は時期尚早」

25日22:46 ポスティック米アトランタ連銀総裁「利回りは歴史的にみて依然として非常に低い」「FRBが現時点で利回りに対応する必要はない」

26日00:33 ブラード米セントルイス連銀総裁「成長とインフレの改善を考慮すると利回りの上昇は適切」

26日09:41 米国防総省「米国はシリアで防衛空爆を実施した」

一言コメント・・・パウエルFRB議長が「インフレ目標を達成するのに3年以上かかる可能性がある」と述べたことが意識されて、米金融緩和策が長期化するとの見方が改めて意識されドル売りが優勢となりました。米国株の上昇を受けてリスク・オンのドル売りも見られました。

今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
1日	24:00	月	USD	ISM製造業景況指数	*	2月	58.7		58.6
2日	12:30	火	AUD	RBA政策金利	*	*	0.10%		0.10%
2日	19:00	火	EUR	HICP速報値	前年比	2月	0.9%		1.0%
3日	22:15	水	USD	ADP雇用統計	前月比	2月	17.4万人		17.0万人
3日	24:00	水	USD	ISM非製造業景況指数	*	2月	58.7		58.6
4日	26:05	木	USD	パウエルFRB議長発言	*	*	*	*	*
5日	22:30	金	USD	非農業部門雇用者数変化	前年比	2月	4.9万人		15.0万人

今週の注目は・・・FRB議長発言

週刊マーケットアナリシス 会員専用版レポート

会員サイトログイン後のページで
ご確認下さい

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
 - 荻野金男
 - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - 今井雅人
 - よろずのつぶやき

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。